

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103151
法人名	特定非営利活動法人グループホーム風花
事業所名	グループホーム風花
所在地	愛媛県松山市来住町1057番地1
自己評価作成日	平成22年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営推進会議をきっかけに敬老会「寿会」に参加するなど地域とのつながりが深まっている。
職員自身のケアの質を向上させる取り組みとして、併設事業所と一緒に委員会を発足し、月に一度勉強会を開催している。
自然を大切に料理の提供を心がけ、天然だしを使用し、ご飯は雑穀を混ぜ、畑でとれた野菜など旬のものを味わえるような工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の老人会「寿会」には、利用者数名と管理者や職員も入会されて、カラオケ大会に参加されたり、日帰り旅行では地域の方と一緒に温泉に入り、ごちそうを食べられました。又、公民館で行われているゲートボールにも参加され、今後、事業所主催の「風花杯」を開催して、事業所としてもチームを作り参加することを計画されていた。さらに、事業所のことを知っていただくため、地域向けの「風花だより」を年に4回発行し、回覧板で回したり、公民館に掲示していただいている。事業所では、運営推進会議時に出席者からの提案で地域の人に行ったアンケート調査から、いろいろな地域の声を知り、もっと地域のニーズに応えていきたいと考えておられた。まずは、地域の中でボランティアを募り、協力をいただきながら地域の独居老人の方達に、月1回、事業所に来ていただき、過ごしてもらうことを計画されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム風花

(ユニット名) 花

記入者(管理者)

氏名 長岡 すみ子

評価完了日 平成 22年 6月 14日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスを実践するにあたり、地域に根ざしたホームづくりを目標に掲げ、具体的な表現で独自の理念をつくり、ユニットの入り口に掲示している。一年に一度職員全員で理念の振り返りを行い、出勤時には声に出して読み上げている。	
			(外部評価) 毎年、ユニット毎に理念を作成しておられ、今年度は理念の一つに「ご近所とのつながりを大切にします」と挙げておられた。ユニットの理念は、年度末に全職員で振り返り、実践してきたことを「より深める」ことができるような理念を作り、取り組みを重ねていけるようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の住民として、日常から近隣の方と挨拶を交わしたり、回覧板をまわしたり、地域の清掃作業に参加している。また、地域の様々な催しに利用者・職員が積極的に参加し交流をはかっている。地域の老人会に入会し、旅行等にでかけたりと、地域住民としての生活の幅が広がっている。	
			(外部評価) 地域の老人会「寿会」には、利用者数名と管理者や職員も入会されて、カラオケ大会に参加されたり、日帰り旅行では地域の方と一緒に温泉に入り、ごちそうを食べ楽しまれたようである。又、公民館で行われているゲートボールにも参加され、今後、事業所主催の「風花杯」を開催して、事業所としてもチームを作り参加することを計画されていた。さらに、事業所のことを知っていただくため、地域向けの「風花だより」を年に4回発行し、回覧板で回したり、公民館に掲示していただいている。事業所では、運営推進会議時に出席者からの提案で地域の人に行ったアンケート調査から、いろいろな地域の声を知り、もっと地域のニーズに応えていきたいと考えておられた。まずは、地域の中でボランティアを募り、協力をいただきながら地域の独居老人の方達に、月1回、事業所に来ていただき、過ごしてもらうことを計画されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域運営推進会議やホームの催しに来て頂くことで、たくさんの方に利用者の生活の一端に関して頂いている。また、地域向けの便りを年数回発行したり、地域の講習会などで認知症への理解を深め、相談を受けるなどしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 今年度は参加者から会議のテーマを持ち寄っていただき、より利用者の生活やホームのサービス内容等が身近に感じられるものとなっている。また意見や質問はその都度お返しするとともに、アンケートを実施したり、地域や家族の意見(防災・職員名簿)をサービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、参加者が発言できるようにすすめておられ、保育園の職員の方から保育園の方針や行事等についてお話いただく等、ホームだけでなく地域内のことをいろいろ知ることができるようすすめられている。町内会長より「地域でグループホームをどこまで理解しようとしているか、アンケートをとってはどうか」と提案があり、「風花を知っているか」「認知症について知っているか」等、全職員でアンケート内容を考えて、近隣80件ほどのお宅を訪問して、アンケートに答えていただいた。</p>	<p>事業所は、会議を「地域づくりの場」と捉えて、地域のいろいろな立場の方に出席いただき、いろいろご意見等を聞かせてもらいたいと考えておられる。認知症ケアの専門性やホームの有用性を活かして、貴事業所が地域の拠点となるよう、会議を活かし、又、貴事業所のサービスの質の向上にもつなげていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市職員の研修現場としての受け入れもあり、また利用者との交流の場も設けている。地域包括が主催するグループホーム交流会を企画し、地域のホームでの交流の場を広げている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者には、運営推進会議に参加いただき「認知症のことを知ってもらうことの大切さ」や「人の出入りを多くする工夫が大切」とアドバイスをいただいた。包括支援センターの協力で、地域内の事業所合同の研修会にも参加されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関はもちろんのこと、居室・勝手口・テラスなど施錠は一切せず(日中時)利用者の意思を尊重し自由に出入りできるようにしている。また、ベッド柵や車いすの取り扱いにも注意し、身体拘束しないケアを研修においてグループワークし意識を深めている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、身体拘束についての研修会を年2回行っておられる。職員は「言葉で利用者の動きを止めない」ことに注意を払い、自分の発した言葉を日々振り返っておられる。調査訪問時、ベランダを自由に出入りされている利用者も見られたが、職員は止めることなく見守りされていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待・身体拘束の研修に参加し、コンプライアンスルールの見直しを行い、言葉遣いや態度にも気を付けている。また、常に意識を持ち続けられるように、ミーティング時には丁寧な声かけや接し方ができているか、振り返りを行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は学ぶ機会を持っていないが、家族会で成年後見制度の話をしたり、個別に相談にのるなどの支援はできている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に説明している。特に利用料・起こり得るリスク・重度化や看取りについての対応指針・医療連携など詳しく説明し、同意を得ている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会では家族が主体となって意見交換したり、ホームへの要望等が話し合える機会になるよう工夫している。また地域運営推進会議において家族や利用者の意見を議題にするなどして、外部の方からの客観的な視点を運営に活かせるようにしている。(火災などの避難訓練)	
			(外部評価) 家族会は、年2回開催されており、ご家族が意見を出しやすいようにご家族が主体ですすめておられ「衣服の行方が分からなくなる」というご意見には、職員で話し合い、始めに写真を撮っておくようにされた等、改善していけるよう取り組まれている。年4回、ご家族に、事業所便りを発行し、写真を多く載せて、利用者の日々の様子や新人職員を紹介されている。又、職員一人ひとりが「自己課題」を設定して、職員個々が意識しながら利用者とかかわるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 3ヶ月毎の個別面談を行い、話し合う機会を設けている。日常の中でもミーティングの際に情報の提供や意見の言える職場作りを心がけ、運営に反映させている。	
			(外部評価) 事業所では、ユニットリーダーと2週間に1回、管理者と月1回、又、法人の代表者と3ヶ月に1回個別に面談する機会を設けておられ、職員個々の自己課題の解決状況を聞いたり、個人的な悩みや業務上の悩み等を聞いてくれるようになっていた。又、「申し送りノート」は、職員が日々のケアを通して「気付いたことを、気付いた時に、気付いた職員に」記入してもらうようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人が自己課題を設定し、適宜管理者や代表者と面談しながらその進行状況を見直し、更なるスキルアップができる機会を設けている。またOJTを活用し、職員の努力や実績を評価しながら、それに応じたアドバイスを行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を隣接事業者の他ホーム等と協同しながら行い、職員が参加し、ケアの向上につながるようになっている。研修内容も新人研修やハビリの研修、マナー研修など多様にわたり行っている。また適宜、ミーティングもしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会への参加で、他事業所との関係を深めたり、相互研修やグループホームの見学受け入れなど、質の向上を目指し取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問をし、面談を重ねていきながら本人の思いを聞いたり、相談にのるように努めている。また、不安を軽減するために隣接のデイやお試しショートを行いながら安心できる環境を整えている。入居後は居室・浴室などで一対一の会話をしながら本人の安心を確保している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) フェイスシートなど基本情報をもとに聞き取りを行い、家族とのアセスメントを密にし、家族の良き相談相手として精神面を支え、少しでも不安や迷いが解消できるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の要望や意見をすり合わせながら、まず何が必要かをフェイスシートなどから見極め、福祉用具やデイ利用などのサービスも十分説明し、双方に納得していただいてからサービスにあたるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の主体は利用者であることをいつも心がけている。利用者の声、できる力、その人らしさを大切にしながら共に喜んだり達成感が味わえるようなサポートをしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプランにも家族の意見や要望を反映させながら、可能な限り関わりを持っていただけるように事業所で開催する行事に参加していただいたり、好物の差し入れをしていただいたり来訪する機会を設け、絆が途切れないようにしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 初期の段階で、家族や本人より馴染みの人や場所の聞き取りを行うとともに、会話などの関りを通して知るようになっている。またその情報をもとに行きつけの店に買物に行ったり、ドライブに出かけたり、手紙を出すなどの支援を行っている。またセンター方式を使い、馴染みの関係の洗い出しをしている。 (外部評価) 以前から通っている商店で買い物をされたり、行きつけの美容院に行かれる方、知人に季節の便りや手紙を書いて出される方もサポートをされている。又、同級生や知人が会いに来てくださる方もある。身寄りが無く、亡くなられた利用者や、毎年お盆に僧侶に来ていただき、管理者と職員で供養されていたが、近年から希望する利用者も一緒に手を合わせ、講話を聴いておられる。	「生まれ育ったところに行ってみよう」というご利用者の希望があり、生家のあった場所にお連れした際、偶然に知人と感動の再会を果たした例があり、管理者は、多くの利用者を「馴染みの場所」へお連れしたいと考えておられる。今後さらに、ご家族とも相談しながら、利用者の行きたい場所や会いたい人に会いに行けるような取り組みを工夫してすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者が他者の食事介助や衣類のボタン付け、縫い物をしたり、夜は遅くまで利用者同士で茶会をしたりなど、利用者同士が支え合えるような支援をしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要としている家族・利用者が今現在までにいない。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の言葉・表情などからその思いを探り、センター方式の五つの視点のシートに落としてケアプランにつなげている。また一人一人アセスメントしながらケア向上への取り組みなどを通して、本人の思いを大切に働きかけている。	
			(外部評価) 利用者それぞれの日々の経過記録の中に、利用者の様子や職員の気付き等を詳細に記しておられる。毎月、経過記録の中から利用者の暮らしを支えていくために必要な情報を抜き出し、センター方式のアセスメント表を用いて情報を集めておられる。新しい情報や変化のあったことなどは、アセスメント表に色を変えて記入して、わかりやすいようにされていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時または入居後に生活歴・生活環境・サービスの利用内容など本人・家族より聞き取りをしたり、普段の会話の中から情報を得ている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各種記録物に、利用者の声・表情や、その場面を落とすと共に、職員の気付きを必ず記入し、日々の暮らしの現状を把握している。また月ごとに経過記録を記入し、職員間では日に何度か利用者の心身状態の変化（排便状況・バイタル）などの申し送りも行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各職員が利用者の担当を持ち、五つの視点から問題点や課題を探り、センター方式のシートを活用している。また、家族からの意見やアイデアを補足しながら介護計画を作成している。	
			(外部評価) 計画は、基本的に3ヶ月ごとに見直しをされている。計画作成前には、ご家族の希望をお聞きし、作成後は計画を説明してご意見をうかがっておられる。職員は「利用者の暮らしぶりをご家族に伝えることにより、ご家族との関係を築き、意見や要望を引き出す」ことができるよう努められている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録の中に気づきの欄を設け、その気づきを申し送りノートに落として職員間で情報の共有を図っている。また、経過記録を見直しながら、次のケアプランにつなげている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状態に応じて、福祉用具を購入したり、受診したりしている。また、家族がホームに泊まったり、利用者と共に食事や買物に行くことができるように支援している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の幼稚園・学校・スーパー・公民館・消防署、また、ボランティア・民生委員・地域住民など、様々な地域資源との協働を図りながら、利用者の暮らしに潤いや刺激が感じられるように支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	(自己評価) 本人・家族の希望に添ったかかりつけ医が月に2回往診に来てくれる。また特変時だけに限らず24時間体制で連絡が取れるようになっている。電話やFAXも活用しながら利用者の状態を密に報告し、必要に応じて指示を受けることができる。	
			(外部評価) 協力医とは、携帯電話で24時間連絡が取れるようになっている。歯科受診のむづかしい方については、協力歯科医院が往診してくださるようになっている。	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	(自己評価) 月4回、訪問看護ステーションほかの看護師が来てくれている。職員からも利用者の状態を報告し必要な支援のための指示を仰ぐとともに、いろいろな状況に応じたアドバイスももらっている。ケア会議では職員の気づきや疑問に対して専門的な支援がある。	
			(外部評価)	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価) 入院した際には、こまめに担当医または看護師に状態や治療経過についての情報を聞き取りしている。早期退院に向け家族とも連絡を密にしながら、各関係者とのカンファレンスを持つようになっている。	
			(外部評価)	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価) 入居時、看取りにおける方針を説明し、同意書ももらっている。終末期の過ごし方を家族と話し合い、方針を決める。医師・看護師との意見交換も頻繁に行い、本人・家族を支え、チームで共に終末期を向かえる取り組みをしている。	
			(外部評価) 今年3月に、事業所で初めて看取り支援に取り組まれた。ご家族が3週間24時間交代でご本人に付き添われ、ご家族に見守られて最期を迎えられた。管理者は、利用者の終末期をご家族とともに見守られた経験から「職員の役割は、ご家族とご本人の関係を深めること」と感じられたようだ。又、看取りを通して「どのような最期を迎えたいか」ということについて、利用者話しをする機会もあり「終末期のあり方について語ることは、タブーではなく必要なこと」と感じられていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 新人職員が入った際には、管理者より急変や事故発生時のマニュアルの講習を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災マニュアルを作成し、地域運営推進会議を通して各種関係機関との連携体制を整えている。また、年に2回避難訓練を実施し、避難の方法や火災の初期消火訓練を、職員と地域住民が協力して行っている。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を行われている。訓練には、地域の方の役割も決めてともに訓練を行っておられる。4月の運営推進会議では、消防署の方に来ていただき、3月に起きた札幌市のグループホーム火災を振り返り、アドバイスをいただいた。又、地域で年1回行われる避難訓練には、職員が参加されている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の人格を大切にし、コンプライアンスルールにのっとった丁寧な対応を心がけている。名前は苗字で呼ぶ・利用者のこだわりや羞恥心を大切にするなどしている。また、ミーティング時には職員の対応の振り返りを行い、常に意識を高めるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、利用者の「尊厳を守る」ことを大切にされている。調査訪問時、職員は昼食前に利用者一人ひとりに「温かいお茶がいいですか。冷たいお茶がいいですか」と利用者の傍でゆっくりとお聞きして、利用者は「ご飯の時は、温かいお茶がええなー」「私は、冷たいお茶がいい」等、ご本人が決めておられるような場面がみられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が選択や自己決定できるように声かけしたり、相談したり、意見を聞いたりしている。また、職員の都合で決めたり動いたりしないように、利用者の仕草や表情を観察し、思いや希望を拾い上げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の生活のペースや暮らし方を尊重し、掃除が好き・居室で休みたい・台所の片付けがしたいなどを見守ったり、希望に添った外出の支援をしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個人差はあるが、希望に添って美容院へ行ったり、化粧をしたり、体調に合わせてその日の服装を一緒に選んだりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 冷蔵庫の材料を見ながら一緒に献立を決めたり、野菜の下ごしらえ・味付け・盛り付け・食器洗い・食器拭き・台拭きと、それぞれの力を活かした支援ができています。	
			(外部評価) 数日に1度、利用者とともに買出しした食材をテーブルに並べ、利用者が食材を手に取りながら職員と一緒に今日の献立を決めるようにされている。事業所の畑で採れた旬の野菜を利用されることもある。朝食にこだわりのパンをトーストして、お気に入りのジャムで召し上がる方もおられる。調査訪問時、利用者と職員でうどんの麺の生地を作っておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全利用者の食事量・水分量を記録し、職員間で情報を共有をしている。また、不足している利用者には温度や味付けなどを工夫したり、好みのものをすすめている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の状態に応じた口腔ケアを行っている（口腔マッサージも含む）。毎食後は無理でも、夕食後には必ず行えるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表に個々の排泄状況を記入し、そのリズムや排泄の有無を確認しながら、トイレ誘導している。 日中は布パンツに切り換えたり、おむつの使用を最小限に抑えながら、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 毎月、利用者個々の紙パンツやパット等にかかる費用等も踏まえ、排泄支援を検討されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便秘の予防・解消法をミーティングで話し、薬に頼らず食物繊維の多い献立、腹圧の体操、水分摂取などによる予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の入浴状況を記録に残し、無理強いせず、入りたいと思えるような声かけの工夫をしている。また、身体状況や排泄の有無に応じて、清拭や陰洗をするなど柔軟な支援を心がけている。</p> <p>(外部評価) 基本的には、夏場は2日に1回、冬場は3日に1回入浴するようになっている。夕食後に入浴される方もある。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中も状態に応じて居室で休んだり、夕食後など本人の希望に応じた時間に就寝できるような支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人の薬について処方箋をファイルし、全職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時間や、支援した職員名を記録し、情報交換を常に心がけている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一緒に台所に立って食事の準備をしたり、洗濯物干し・たたみ、食器拭き、犬のえさやりなど、それぞれの力を活かした役割の支援をしている。また、誕生会・花見・散歩・運動会・生け花・写経・日記・写生などの楽しみや気分転換の支援も行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天候・時間を考慮した上で外出希望者を募り、季節折々の場所へ出かけたり、地域の会に参加したり、日帰り旅行へ行ったりと楽しみが広がっている。	
			(外部評価) スーパーへの食材の買出しには、必ず利用者も職員と一緒に出かけられ、近くの神社に毎日のように職員とお参りされる方もいる。パン屋さんや喫茶店でコーヒーを楽しまれたり、季節のお花を見にドライブに出かけることもある。状態により、外出のむつかしいような方は、庭に出て過ごす時間を作れるように気を付けておられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理できる利用者には、適宜補充しながら希望時に使うことができるようにしている。計算や支払が困難な利用者には、手助けしながらお金を使う喜びを味わえるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人、家族、親戚などと電話で話をしたり、手紙を書いてポストに投函しに出かけたりと、絆が途切れないように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに装飾品を替えたり、花を飾ったりしている。日中はなるべく自然光で過ごすようにし、カーテンやブラインドで調節している。温度や湿度もこまめに管理し、換気も適宜行っている。	
			(外部評価) 事業所の玄関や居間には、利用者が生けた季節のお花が飾られてあった。利用者が好きな時に自分でお茶を飲むことができるよう、ポットと湯のみがテーブルに用意されていた。利用者は、インコに話しかけたり、新聞や広告を見たり、洗濯物をたたんだりされていた。調査訪問日は七夕で「昔は葉っぱの露を集めて磨った墨で短冊を書いていた」ことや「七夕に柏餅を食べていた」こと等、利用者同士で懐かしみながら会話をされる様子もうかがえた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや食卓の配置を適宜見直しながら、個々に過ごせる居場所を作ったり、利用者同士が集える場所も設けながら、思い思いに過ごせる環境を整えている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 畳に布団、ベッドなど、利用者の状態や希望に応じて選択している。また、自宅で使っていた筆筒を置いたり、家族の写真を飾ったりと、居室内の装飾も本人好みに決めている。	
			(外部評価) 居室内の収納スペースは、利用者の手が届きやすいように低く設定されており、多くの方が収納スペースの上を飾り棚として利用されていた。棚いっぱいにはぬいぐるみを飾っておられる方や、入居前に趣味の旅行を通して集められた民芸品を飾っている方もあった。調査訪問当日は、梅雨の晴間の日であり、窓を開けて風を通して、布団を干している居室もみられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレのドアは赤で統一し、トイレ内は立位や座位が取りやすい位置に手すりを設置している。クッションをはさんだりしながら、安全かつできるだけ自立したトイレ支援が行えるように工夫している。	